

# 平成20年度 西宮市行政方針

大正14年、市制を施行して以来83年を迎えるこの4月1日に本市は、中核市としての新たな道を歩みはじめます。

私は、これまで市民の皆様や市議会、そして行政が一体となつてこの「西宮」を発展させてきたことが、ここに中核市移行という成果となって現れたものであると考えています。すなわち、文教住宅都市を基調としたまちづくりや震災からの着実な復興、さらには環境学習都市や子育て支援などの時代の流れを的確に捉えた取り組みが、本市の「アメニティ豊かな都市」としての評価を高め、人口増をもたらした、中核市としての基礎を築き上げたものです。

今年度は「第3次西宮市総合計画」の最終年度であることも、平成21年度からの新たなまちづくりの計画である次期総合計画を策定する年でもあります。私は、中核市の市長としての誇りをもって、その権限を最大限に活用し、中核市としての風格を備えた、市民が安全で、安心して暮らせるまちをめざしていきたいと考えています。

ここ数年の日本列島は、昨年の新潟県中越沖地震や各地での風水害など、数々の自然災害に見舞われるとともに、今後も東南海・南海地震などの発生が危惧されています。阪神・淡路大震災を経験した本市は、その教訓をふまえ、今後発生が予想される様々な災害に対応するため、公共施設の耐震化を促進するなど、災害に強いまちづくりを進めます。

安全で安心な暮らしは、全市民が共有できるものでなければなりません。私は、高齢者や障害のある人などすべての人が、生涯にわたって健やかで安心して暮らせるよう、心のかよった人によさしい福祉のまちづくりを進めます。

犯罪のない社会は、我々の切なる願いではありますが、近年本市でも犯罪件数が増加し、市民の不安が高まりつつあります。なかでも子どもたちに対する犯罪は、我々大人が全力を挙げて防止しなければならぬと考えています。

このために今年度は、地域の防犯活動をなつていただいた防犯協会の支援し、家庭、地域、行政が一体となつて子どもたちを見守っていきます。

今、我々が住む地球の環境は、危機的な状況を迎えつつあります。このままでは、この素晴らしい地球を子孫に引き継ぐことができないのではないかと危惧されています。

今年度は、京都議定書にもとづく温室効果ガス削減の約束期間が始まる年でもあります。また、この5月には、洞爺湖サミットに関連する環境大臣会合が兵庫県で開催されます。

「環境学習都市宣言」を行い、環境学習活動の先進市である本市は、現在策定中の「第2次地球温暖化対策実行計画」にもとづき、市の活動により排出される温室効果ガスの削減に努めます。また、平成19年度中に市内の8つのコミュニティにおいて設置することとなる「エココミュニティ会議」を他の地域にも広げ、市民、事業者、行政が一体となつて、持続可能なまちづくりを推進します。

昨年12月、阪神西宮駅南の前広場の整備が完了しました。また、この3月には、長年にわたる懸案であった山手幹線全線が市内で供用開始します。阪急西宮北口駅周辺では、この秋に「阪急西宮ガーデンズ」のオープンが予定されており、平成21年4月には、甲南大学のマネジメント創造学部が開校されます。

このように、本市は都市核を中心に一層まちの機能が整いつつあり、少子高齢化の流れを受け、多くの都市で人口減少が社会問題となり、増加対策が講じられるなか、本市では着実に人口増が続いており、私は、このことは都市の発展や活性化にとって望ましいものであり、本市のこれまでのまちづくりが評価されたものであると考えています。

しかしながら、一部地域で急激な人口の流入により、学校施設が不足する事態が生じており、こうした教育環境への影響を防ぐため、指導要綱による住宅開発の抑制を行っています。今後も教室不足が生じる校区の発生が見込まれるため、これらの地区においても住宅開発を抑制する方策等について、早期に検討していきます。

私は、低成長期に入った今、これまでの物質的な成長・拡大に代わって都市に求められるものは「風格」であると思っています。本市は、長年にわたる文教住宅都市としての歩みのなかで「県芸術文化センター」や美術館などの文化施設のほか、豊富な人材に恵まれるなど、文化的風土が培われており、文化は、都市の「風格」を形成するとともに、人に心の豊かさと潤いを与えます。私は、本市の豊富な文化的資産をフルに活用し、より一層の文化の振興を図っていきたくと考えています。

市内の10を数える大学・短大は、その存在自体がまちの「風格」を高めるとともに、学生たちによってまちの活気が生まれるなど「西宮の都市力の形成に寄与しています。これらの大学等と連携して「カレッジタウン西宮」の魅力がこれまで以上にPRしていきたいと考えています。

本市は、山、川、海という自然環境とともに、このような自然と調和した建築物など、すぐれた景観資源を数多く有する都市であり、これらにより形成される都市景観が「西宮」の魅力をより一層高めるものとして、市民の皆様から高い評価をいただくと結果となっております。

私は、中核市への移行により景観施策をより主体的に推進できる「景観行政団体」となるのを機に、全国に誇れるこの「西宮」の都市景観を維持、発展させることが重要であると考えています。このため「景観法」を活用し「景観計画」を策定するとともに「都市景観条例」の見直しを行い、市民、事業者と一体となつて取り組みます。

六甲山系の緑や「日本さくら名所100選」にも選ばれている夙川公園周辺等の桜は、今や「西宮のシンボル」となっています。訪れる者には、その都市と調和した自然の美しさが感動を与え、住む者には、ふるさとの風景として深く心に刻まれています。

本市では、これまでもこの貴重な資源を守り、育てるとともに、緑化に有用な新品種植物の開発なども行ってきましたが、今後も、市が増殖育成したオリジナルな桜を市内各所へ植栽するなど、市民と一体となった花と緑のまちづくりを進めます。

以上の施策を展開していくためには、財政の基盤を確固たるものとしなければなりません。今年度は「第3次行政改革実施計画」の最終年度にあたり、特別職を含む職員の人件費をはじめとした内部管理経費を削減するとともに、市民の皆様にもご理解をいただいたことにより、一定の成果を上げてきました。

しかし、原油をはじめとした諸物価の上昇やアメリカのサブプライムローン問題による金融機関の損失拡大などにより、我が国全体の経済が先行き不透明であることに加え、本市においては、今後も人口増による行政需要などが見込まれることから、新たな総合計画の財政フレームも見極めながら、今後の財政運営の方向について検討します。

「男女共同参画プラン」にもとづき、男女共同参画社会の形成に向け取り組みます。今年度は、日本人ブラジル移住100周年にあたることから、友好都市ロンドン・ナ市で行われる記念式典等へ訪問団を派遣します。

多文化共生社会の推進を図るため、市役所本庁舎に多言語案内

さらに、地方分権の進展により、各自自治体には自主的、自律的な経営が求められるなか、本市が中核市として着実に歩みを進めるためには、行政の経営改革にも継続して取り組みなくてはなりません。

本市では、平成15年度に「行政経営改革基本計画」を策定し「行政経営型マネジメントの確立」と「参画と協働によるまちづくりの推進」に取り組んできました。今年度はこの計画の最終年度にあたり、

限られた経営資源を最大限に活用し、市民満足度の高い行政運営を行うため、これまで定着を図ってきました行政評価等を事業、施策の展開や予算の配分につなげる「行政マネジメントシステム」の構築に取り組み、効果的、効果的な行政サービスの提供を行います。また、外郭団体の見直しにつきましても、引き続き取り組みます。

「参画と協働のまちづくり」は、私が市長就任以来一貫して基本姿勢としてきたものであり、引き続き「(仮称)市民参画条例」の制定に取り組みます。また、昨年から「団塊の世代」が定年退職の時期を迎えたことにより、豊富な経験と多様な能力をもった人々が地域に戻りつつあります。私は、今後のまちづくりには、これらの方々の方が欠かせないものと考えており、現在策定中の「団塊世代対策基本方針」にもとづき、生きがいづくりを推進します。

昨年来の食品を始めとした偽装問題や消えた年金問題の発生、さらには「品格」という言葉の流行などは、社会のあり方そのものを問うているのではないのでしょうか。私は、中核市元年にあたり、我がまち「西宮」の歩んできた道を今一度見つめなおし、今後のあるべき姿を皆様と共に考え、輝く未来へ、文教住宅都市「西宮」を合言葉に、だれもが住みやすい、住み続けたいと願う個性豊かな文教住宅都市「西宮」の実現に向けて躍進すべく、全力を挙げて取り組みます。

以上のような考え方を基本として、これまで私が進めてきました「愛と希望のまちづくり」をさらに充実発展させるため、今年度を実施する主要な事業・施策について、6つの視点に沿って説明します。

平成20年度予算案については2面で紹介しています。

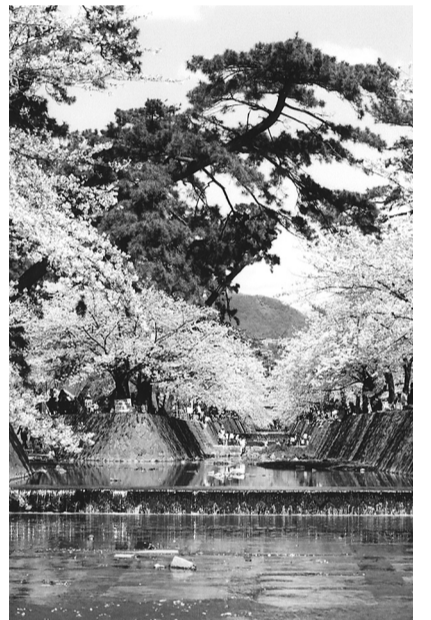
協議会 設立50周年にあたることから、同協議会と共催で「平和のつどい」を拡充開催するとともに、この10年間の歩み等を記した記念誌の発行を行うなど、平和非核都市宣言の普及啓発に努めます。

「団塊世代対策基本方針」にもとづき、新たな活動の場を提供するための方法や、新たなライフスタイルの提案等をテーマに講演会を行うとともに、生涯学習大学「宮水学園」の講座を増設します。

生涯学習大学「宮水学園」では、多彩な講座を展開しています

内表示システムを整備します。今年度は「原水爆禁止西宮市

内表示システムを整備します。今年度は「原水爆禁止西宮市



西宮のシンボルにもなっている「夙川の桜」

## 1 市民と手をたずねて進めるまちづくり

NPOや地域の活動の拠点である「市民交流センター」の耐震工事およびエレベーター設置に向け、実施設計を行います。

人権・同和問題は、引き続き「人権教育のための国連10年」西宮市行動計画の中間報告にもとづき、各種の課題に取り組むとともに、今年度は行動計画の最終年度にあたることから、次期計画の策定に向け検討を行

います。

「男女共同参画プラン」にもとづき、男女共同参画社会の形成に向け取り組みます。

今年度は、日本人ブラジル移住100周年にあたることから、友好都市ロンドン・ナ市で行われる記念式典等へ訪問団を派遣します。

多文化共生社会の推進を図るため、市役所本庁舎に多言語案内

さらに、地方分権の進展により、各自自治体には自主的、自律的な経営が求められるなか、本市が中核市として着実に歩みを進めるためには、行政の経営改革にも継続して取り組みなくてはなりません。

本市では、平成15年度に「行政経営改革基本計画」を策定し「行政経営型マネジメントの確立」と「参画と協働によるまちづくりの推進」に取り組んできました。今年度はこの計画の最終年度にあたり、

限られた経営資源を最大限に活用し、市民満足度の高い行政運営を行うため、これまで定着を図ってきました行政評価等を事業、施策の展開や予算の配分につなげる「行政マネジメントシステム」の構築に取り組み、効果的、効果的な行政サービスの提供を行います。また、外郭団体の見直しにつきましても、引き続き取り組みます。

「参画と協働のまちづくり」は、私が市長就任以来一貫して基本姿勢としてきたものであり、引き続き「(仮称)市民参画条例」の制定に取り組みます。また、昨年から「団塊の世代」が定年退職の時期を迎えたことにより、豊富な経験と多様な能力をもった人々が地域に戻りつつあります。私は、今後のまちづくりには、これらの方々の方が欠かせないものと考えており、現在策定中の「団塊世代対策基本方針」にもとづき、生きがいづくりを推進します。

昨年来の食品を始めとした偽装問題や消えた年金問題の発生、さらには「品格」という言葉の流行などは、社会のあり方そのものを問うているのではないのでしょうか。私は、中核市元年にあたり、我がまち「西宮」の歩んできた道を今一度見つめなおし、今後のあるべき姿を皆様と共に考え、輝く未来へ、文教住宅都市「西宮」を合言葉に、だれもが住みやすい、住み続けたいと願う個性豊かな文教住宅都市「西宮」の実現に向けて躍進すべく、全力を挙げて取り組みます。

以上のような考え方を基本として、これまで私が進めてきました「愛と希望のまちづくり」をさらに充実発展させるため、今年度を実施する主要な事業・施策について、6つの視点に沿って説明します。

平成20年度予算案については2面で紹介しています。

協議会 設立50周年にあたることから、同協議会と共催で「平和のつどい」を拡充開催するとともに、この10年間の歩み等を記した記念誌の発行を行うなど、平和非核都市宣言の普及啓発に努めます。

「団塊世代対策基本方針」にもとづき、新たな活動の場を提供するための方法や、新たなライフスタイルの提案等をテーマに講演会を行うとともに、生涯学習大学「宮水学園」の講座を増設します。

生涯学習大学「宮水学園」では、多彩な講座を展開しています

内表示システムを整備します。今年度は「原水爆禁止西宮市

内表示システムを整備します。今年度は「原水爆禁止西宮市



生涯学習大学「宮水学園」では、多彩な講座を展開しています